

令和6年度文部科学省委託

『日本語教育の参照枠』を活用した教育モデル開発・普及事業
留学分野のカリキュラムづくり・授業づくりのための教員研修

【研修①】 留学分野のカリキュラムづくりのための教員研修

日時: 2024年12月8日(日)10:00~16:00

対象者: 告示校及び認定申請済み教育機関においてカリキュラム作成に携わる校長・主任教員
・専任教員(1校につき1名のみ)

研修目標: ・「日本語教育の参照枠」を活用した留学分野のカリキュラムづくりのプロセスを体験し、自らの機関に適したカリキュラムが作れるようになる。

・「日本語教育の参照枠」を活用したカリキュラムづくりに向け、自らの機関に適した教員研修を企画・実施できるようになる。

10:00~12:00	開会
	「日本語教育の参照枠」の理解 自分が今どのくらい「日本語教育の参照枠」を理解しているかを確認します。
	ワーク①: カリキュラムの土台を考える カリキュラムづくりの概要を学びながら、教育理念やコースの枠組みを考えます。
12:00~13:00	昼休み
13:00~16:00	ワーク②: レベルごとの重点課題を考える Can do(課題)に基づくカリキュラムづくりを学びながら、レベルごとの重点課題を考え、整理します。
	ワーク③: 学期/レベルの学習内容を考える 重点課題をもとに学期/レベルを通した学習内容を考え、より細かなカリキュラムづくりに取り組みます。
	振り返り ワークで作成したカリキュラムを見ながら一日の学びを振り返ります。
	閉会
16:00~16:30	懇談会(参加任意) 興味のあるテーマについて、参加者同士で自由にお話いただく予定です。

*研修全体を通して、ブレイクアウトルームでのグループワークもあります。

(進行時間や内容は、一部変更することがございます。)

【研修②】 留学分野の授業づくりのための教員研修

日 時: 2025年1月18日(土) 10:00~16:00

対象者: 告示校及び認定申請済み教育機関において授業を担当している教員で、本研修終了後に、自校の教員研修の企画・運営に携わる教員(1校につき1名のみ)

研修目標: ・「日本語教育の参照枠」を活用した留学分野の授業づくりのプロセスを体験し、授業活動を自ら考えることができるようになる。

・自らの機関内の関係者と共に「日本語教育の参照枠」を活用した教育実践を行い、継続的に共有と研鑽を行うことができる。

10:00~12:00	開会
	「日本語教育の参照枠」の理解 自分が今どのくらい「日本語教育の参照枠」を理解しているかを確認します。
	ワーク①: 学習者の課題を想像する 「行動中心アプローチ」や「課題」について学びながら、学習者が日本語を使って行う様々な行動をイメージし、洗い出します。
	ワーク②: 学習者の課題を整理する 学習者が日本語を使って行う行動を10種類のカテゴリーに分類します。
12:00~13:00	昼休み
13:00~16:00	ワーク③: 授業における課題を選ぶ 学習者が日本語を使って行う行動の中から、日本語の授業において特に重視されると思われる課題(Can do)を抽出します。
	ワーク④: 課題達成のための学習活動を考える 学習者の課題(Can do)の達成に向けた学習活動を具体的に考えます。
	ワーク⑤: 自己評価表を考える 学習者の課題(Can do)の達成具合を確認するための自己評価表づくりに取り組みます。
	振り返り ワークで作成したカリキュラムを見ながら一日の学びを振り返ります。
16:00~16:30	懇談会(参加任意) 興味のあるテーマについて、参加者同士で自由にお話いただく予定です。

*研修全体を通して、ブレイクアウトルームでのグループワークもあります。

(進行時間や内容は、一部変更することがございます。)

【研修講師】

以下の委員が、研修の講師を担当します。

〈留学分野の教育モデル普及検討委員会〉（五十音順、敬称略）

江副隆秀 新宿日本語学校 校長
奥村三菜子 NPO 法人 YYJ・ゆるくてやさしい日本語のなかまたち 副理事長
亀田美保 大阪 YMCA 日本語教育センター センター長
竹田悦子 コミュニカ学院 顧問
山本弘子 カイ日本語スクール 代表

〈留学分野の教育モデル再検討・補填に関する委員会〉（五十音順、敬称略）

柏谷涼介 セントラルジャパン日本語学校 主任教員
久保田文子 京進ランゲージアカデミー日本語教務課 課長
佐久間みのり 横浜デザイン学院日本語学科 教務主任
野田敏郎 国際ことば学院日本語学校 校長
松葉優子 浜松日本語学院 校長

以上